

## 第1回 砂川市立小中学校適正配置計画検討委員会 会議記録

○日 時 令和元年8月1日(木) 18:00~19:25 (所要時間=1時間25分)

○会 場 砂川市公民館 第2研修室

○出席者 【検討委員】 15人 ※欠席者 5人

【事務局員】 6人 教育長(委嘱書交付・開会挨拶まで)  
教育次長、学務課長、学務課長補佐(3人)

○傍聴者 2名 (50歳代男性1名、40歳代女性1名)

○議事記録(次第)

1. 開 会
2. 委嘱書交付
3. 挨拶 (教育委員会教育長)
4. 会長・副会長選出
5. 説明事項

- [1] 市立小中学校のあゆみと概況
  - [2] 学級数・児童生徒数の現状
  - [3] 児童生徒数等の予測推移
  - [4] 検討委員会の役割
  - [5] 基本計画(適正配置計画)案の内容
  - [6] 検討のポイント
  - [7] 検討委員会開催のスケジュール
- ※ 参考資料の添付あり

### 【議事の内容(要旨)】

説明事項 [1] ~ [7] 及び参考資料について、事務局より一括説明

会長 今程の資料説明に対し、質問及び確認事項があればご発言を。

委員 新たな学習指導要領の実施に伴い、小学校では今の教員の人数配置では難しい面もあると思うが、教科担任制は今後どのように推移していくのか。

事務局 教科担任制については、現段階で具体的なものはまだ決まっていない。  
心配されるとおり、例えば小学校の外国語授業では、3年生から外国語活動が始まり、5・6年生は英語が通常の教科として導入・評価されることになるため、専門性のある教員の確保というのは、益々重要になってくる。  
このことは基本方針にも掲げており、中学校の望ましい学級数を1学年3学級としているのも、専科教員の確保という視点からそう記している。

- 委員 情報量や検討すべき事項も多い中で、基本計画案を作成するとなれば、ベシック案みたいなものが必要だと思うが。
- 会長 当委員会が一番の論点は学校統合の適否ではないかと思う。それであれば、十分な議論を深められる資料というか、“たたき台”的なものが必要と考える。  
あくまで結論づけるものではなく、適否は別として、基本方針に基づいた一つの例として、次回までに事務局にてそれら協議資料を整理願いたい。
- 委員 会議資料においては、協議に入る前に内容等の確認をしておきたいため、可能な限り事前に配布願いたい。
- 事務局 ご指摘のとおり、会議資料は可能な限り事前配布として対応いたしたい。
- 委員 資料にある教職員の配置基準は全国一律のものなのか。
- 事務局 本資料にあるものは、国の基準を基に北海道が運用している配置基準である。
- 委員 砂川市の人口も将来的には1万人を下回るのではないか。その時点での児童生徒数はどのくらいになるものか。おおよそのイメージで結構なので、ある程度長いスパンでの児童生徒数の推移が分かる資料を用意願いたい。  
また、小中一貫教育は幼保及び学校連携にとっては素晴らしいことだと思う。  
ただ、メリットばかりでもないと思うため、より議論を深めるためにも、小中一貫教育を進めている他市町の事例があれば、資料をご用意いただきたい。
- 事務局 人口が1万人程度になるまでの児童生徒数の件については、総合戦略の計画が示す数値を引用して、あくまでも、その時点での数値であってイメージをするための資料としてお示しすることは可能。  
また、小中一貫教育の事例は、文部科学省及び道教委で整理した資料があるため、それを次回用意する。
- 委員 委員各位におかれては、適正配置についてはどのような考えにあるのか。  
例えば義務教育学校を、或いは小中一貫教育を目指すべきとか、それとも現状維持なのか、どのようなプランを描いているのか。
- 委員 保護者の立場で言えば、学校統合は是非お願いしたい。  
小中一貫教育のことはまだあまり理解できていないが、例えば1学級10人のままで仮に上下関係ができてしまったらという心配もあるし、クラス替えもできないというのは、子どもたちへの刺激も少ないと思うので、学校の統合はすべきと考える。
- 委員 市民全員に意見を聴くと、恐らく、統合せずに現状のままという人もいると思うが、小中一貫教育だとかソフト的な施策上のことは置いて、ここにいる皆さんは、単純に学校集約、統合に対してはどのように考えているのか。
- 委員 小学校は統合すべきだと思う。
- 委員 今の意見に賛同する。(2名から同意見)

会長 今程の投げ掛けもよろしいが、特に制約がある訳でもないため、皆さんには、自由に発言してくれて良いと思うが。

委員 学校統合はした方が良いと思う。ただ、それにより地域に学校がなくなることが問題になるではとも思う。避難所としての防災面は何かしら手立てされるところと思うし、何か特別なものがある訳でもなく漠然ではあるが地域から学校がなくなるとするのは住民にとって寂しいのではないか。

委員 子どもたちにとっては、学校統合はいいかもしれないが、地域コミュニティを考えると疑問という意見もあると思う。

委員 確かに地域を大事にという声もあるが、砂川市の現状からすると地域への影響は少ないのではと思う。

他所の町のように、完全に中心地から離れているような地域であれば、寂しい想いもあると思うが、砂川市の場合はそのままではないのではないか。

委員 昨今の学校のあり方には色々あって、学校が地域や家庭などを巻き込んで中心的役割を担うというのもあるが、反面、学校がすべきことと、地域がすべきことを分けて考えるというのもある。

地域のために学校があるのではなくて、学校は学校のものというのがある。

新しく学校統合を考えるならば、学校の役割、地域の役割という部分を分けて考えてもいいのではないか。

地域のことは市で考えることであって、学校が考えることは、どういった学校をつくるか、どういう学校でなければいけないのかだと思う。

会長 学校統合の有無に関わらず、学校のあり方自体は少しずつ変わってきており、また、それが求められているのではないかとも思う。地域の係わりも含め、本来の学校のあり方も整理をしなければならないと思う。

委員 個人的には、学校統合はした方が良いと思う。

ただ、市や地域のことではなく、子どもたちにとって、統合することでどのようなメリット、デメリットがあるのかという点を第一に考えるべきだと思う。将来の砂川市を支えていくのは、今の子どもたちであって、やはりそこは一番重視して、どうしたら子どもたちが幸せに暮らしていけるのかということを考えてあげたい。

委員 子どもが幼稚園・保育所に通う保護者からは、小学校へ進学するときに、5つの学校に散っていくというのは可哀想という声も出ている。

委員 幼児教育と小学校・中学校教育が連携し合えるような、学校のあり方を考えていく方がいいのではないか。

2016年に学校教育法が改正され、義務教育学校というのが市の条例の定めにより可能となったこともあり、段々とそのような形態に変わっていくのではないかと感じる。

色々なものが継承されるとしても、将来的にはそういう義務教育学校のような発想で教育が進んでいくのではないかなと思う。

そこまでいくのは、なかなか大変な部分もあるため、まずは小中一貫教育というものを基盤に置いて、幼・保・小・中、できれば高まで一貫できるような、砂川市の学校教育を考えたらいいのではと思う。

この適正配置の視点をどこに置くか。それは子どもの幸せを基本に適正配置を考えていくべきだと思う。よって学校と地域を切り離して考えるというのは当然のこととも思う。

会長 色々と意見も尽きないが、これまでで事務局はどう受け止め考えているか。

事務局 色々ご意見がある中で、子どもファーストで考えるべきとの意見があったが、事務局としても、適正配置の検討に際しては、極力、子ども第一に考えていただきたいという思いはある。適正配置には、地域や学校施設の役割など様々な考え方や課題もあるが、子どもの健全な成長を第一に考えていただきたい。

会長 只今、事務局の意見もあったが、これに対し、またこの他意見等があれば発言いただきたい。

特になければ、日程5. 説明事項については以上とする。

## 6. その他

次回の開催日程について協議。

事務局調整の上、別途、案内通知することで確認される。

以 上